

頭に浮かべながら眠る

のは間違いありません。「君と友達になりたい。話をしたい。」色々思えど実現の様子は全くない。「この状態では自分の希望は夢想にすぎない。勉強も食ってしまう。こりゃあ、いかん。何とかしなきゃ。」そこで、誰もが常に用いる手、ラブレター。君の気持ちもわかず、ただ、君の後を見ていう消極的な態度より、君に僕の気持ちを伝える。君の気持ちもはっきり知り、場合によっては、あきらめる。うまくゆけば、という積極的な態度の方が最適だと思ひ、僕は君にこれを、かすかな期待を持って、書く事にしたのです。僕は君の事について何も知りません。もし、君が僕をなんとも思っていないなら、僕が君をどんなに思っているようにも、それは全く君には関係のない事であり、また、僕が君にこれを示す事は一方的な、ただ、僕のみに関係し、君には全く用のない、まぎらわしい、迷惑な存在だとは、よく知っています。もし、これが君にとって、迷惑となる様な事があれば、どうか悪く思わないでください。そのまま、ほっといて下されば結構です。君もおそらく、僕の事について何も知らないと思ひます。しかし、今君に自分の事を自分で説明しても無意味です。僕は君だけにこれを見てもらえば、それでいいです。君がこれを他の人に見せようと、言おうと、それは勝手です。ただ、君の判断に任す次第です。これを書いた目的は君との交際を申し込む為です。お願いします。

おわり

原稿書き終わって十時。
その後、この日記を書き、
そのまま、あの子のことを
頭に浮かべながら眠る。